

アート+プロジェクションマッピングの地域連携活動への展開 ～雪舟生誕地公園でのプロジェクションマッピングを例として～

中川 浩一

倉敷芸術科学大学芸術学部

(2023 年 10 月 1 日 受理)

本稿は 2022 年 12 月に実施した岡山県総社市「雪舟生誕地公園」でのプロジェクションマッピングの実施報告および研究報告である。この取り組みは総社市文化振興課とのコラボレーションによって実現したものでアート表現と地域連携の展開について考察するものである。

■ はじめに

「雪舟生誕地公園」は雪舟ゆかりの高名な観光スポットでもある。

過去には（新型コロナ蔓延以前）雪舟イベントや「雪舟サミット」などが開催されるなど、雪舟を知り、雪舟を探究するにあたっては非常に意義深い拠点である。

また公園としての機能も高く、イベントなどを通じて近隣の市民の憩いの場ともなっている。

そのように意義深い場所であるにも関わらず最寄りの交通機関の未発達などもあり、知名度が思うように広がっていないところが問題点である。

この重要な拠点をさらに広く伝えるため「インスタ映え」によって SNS 展開したいと考え、その手法としてプロジェクションマッピングを構想した。

今回のリサーチではその実現可能性、また投影場所として適切なところはどこか、また投影した場合どの程度「インスタ映え」して見えるかを技術的・美術的側面からチェックすることを目的とした。

■ 実施場所；雪舟生誕地公園（岡山県総社市赤浜 2025 番地）

調査日および投影日；2022 年 11 月 18 日／12 月 1 日（図 1、図 2）

■ 調査内容

現地ではプロジェクションマッピング投影をすることを前提に、ポータブル電源とプロジェクター、PC を持参しテスト映像を投影した。



図1 総社市「雪舟生誕地公園」外観



図2 総社市「雪舟生誕地公園」外観

● 枯山水の庭

「雪舟生誕地公園」内でもっとも情緒的で赴きのある枯山水の庭でプロジェクション投影実験を実施した。

枯山水の庭は、それぞれ有機的な設置物によって構成されており、通常の建築物とは異なり、幾何的な要素がまったくない。その一方、庭の奥には白壁の塀が囲むように配置されており、片方向に開放的な独特な構造となっている。

また、枯山水の庭には正面に家屋風建物（庵）があり、イベント時には建物が開放され、出入り可能な家屋となる。しかし、プロジェクションマッピングを前提で考えるなら夜の実施となるため、家屋は扉を閉じた状態で投影実施することにした。

投影実験は下記に設定した。

- ① 枯山水の庭に向かったの投影
- ② 家屋風建物（庵）へ向けての投影

① 枯山水の庭に向かったの投影



図3 機材の設営



図4 機材の設営

枯山水の庭の開放部にプロジェクターを配置し、全体に投影できるように設営した（図3、図4）。

庭には枯山水の特徴である大きな石、松などの樹木、また砂利などが情感豊かに配置されているため、遠近感が極端に強調されている。そのため通常通りにフラットな映像を投影すると前後関係がわからなくなったり、投影箇所によっては映像の一部しか見えず、なにを表現しているのかわからなくなる可能性が高かった。

庭に配置されている石や樹木などにどのような映像・モチーフを配置するかを決め、それを投影することで前後関係の錯誤や視認性の悪さを回避することにした。

こうした複雑な構成物ごとに映像をマッピングして別の映像を投影することによって、さらにおもしろく見ることができるのではないか、あるいは、ある種「ジオラマ」のような見え方になってユニークであると現地でのアイデア出しも盛んであり、展開の多様さに期待が持てる結果となった。

また、庭への投影であるため、正面～側面～ロビー内側それぞれの位置から見ると、図5～図8のようにその見え方が随分と異なる結果となることが判明した。

いろいろな角度で見え方が変わるというのは「映え」要素なので、日常とは異なる様相で楽しむことができるプロジェクションの可能性が考えられる。

特に夜の枯山水の庭を見る機会は、ほとんどないため非日常的な映像体験ができ、和の庭園が映像によって様相を変える様は「インスタ映え」ポイントとなりうると考えられる。また、水の要素を排除した「枯山水」であるがゆえに映像では水をイメージしたアニメーションを展開させることを狙い、そのようにデザインされた映像を投影した。

当初は「非」水 \leftrightarrow 「本」水という対比のおもしろさを構想していたが、実際に投影してみると、堀に囲まれた空間が、「アクアリウム」における大きな水槽のようなイメージを創出しており、幻想的な映像展開となった。こうした見え方は昼間の枯山水の庭とは、かけ離れたイメージとなっており、新しい魅力を付与することができた（枯山水 図5、図6、図7、図8）。



図5 枯山水 正面からの投影



図6 枯山水 左側側面から投影

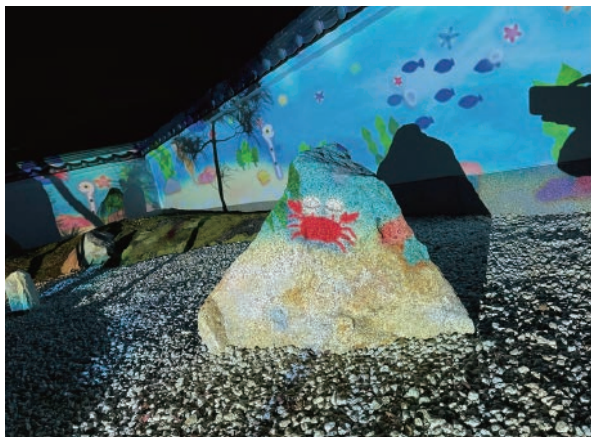


図7 枯山水 右奥側面から投影



図8 枯山水 ロビー内側から投影

②家屋風建物（庵）へ向けての投影

家屋自体が大きな建築物であるため、建物自体に直接のプロジェクションをしたときの効果を知るため全体への投影実験も計画したが、屋根部分が大きく、また瓦は暗い色であるため明確な映像が得られないと予想されたので壁面への投射を実施した。

一方、家屋の壁面を飾る装飾物（風車）などがあったので発色がはっきりしない予想ではあったが、実際には非常によい発色で投影ができた（図9、図10、図11）。



図9 家屋風建物 正面から投影



図10 家屋風建物 左側より投影



図11 家屋風建物 右側より投影

■ 「雪舟生誕地公園」 プロジェクションマッピングまとめ

真四角に近い構造となっており、映像が素直に反射してくれるため、わかりやすい映像となった。

枯山水の庭の前後関係のある映像に対比して、フラットな投影になったことによって、ひとつの投影地で、立体的なプロジェクションマッピングとフラットなプロジェクションマッピングという志向性の異なる2種類の映像が展開できることとなり、その意味でも面白く鑑賞できるプロジェクションマッピングとなった。今回の投影設置を図12にて図示する。

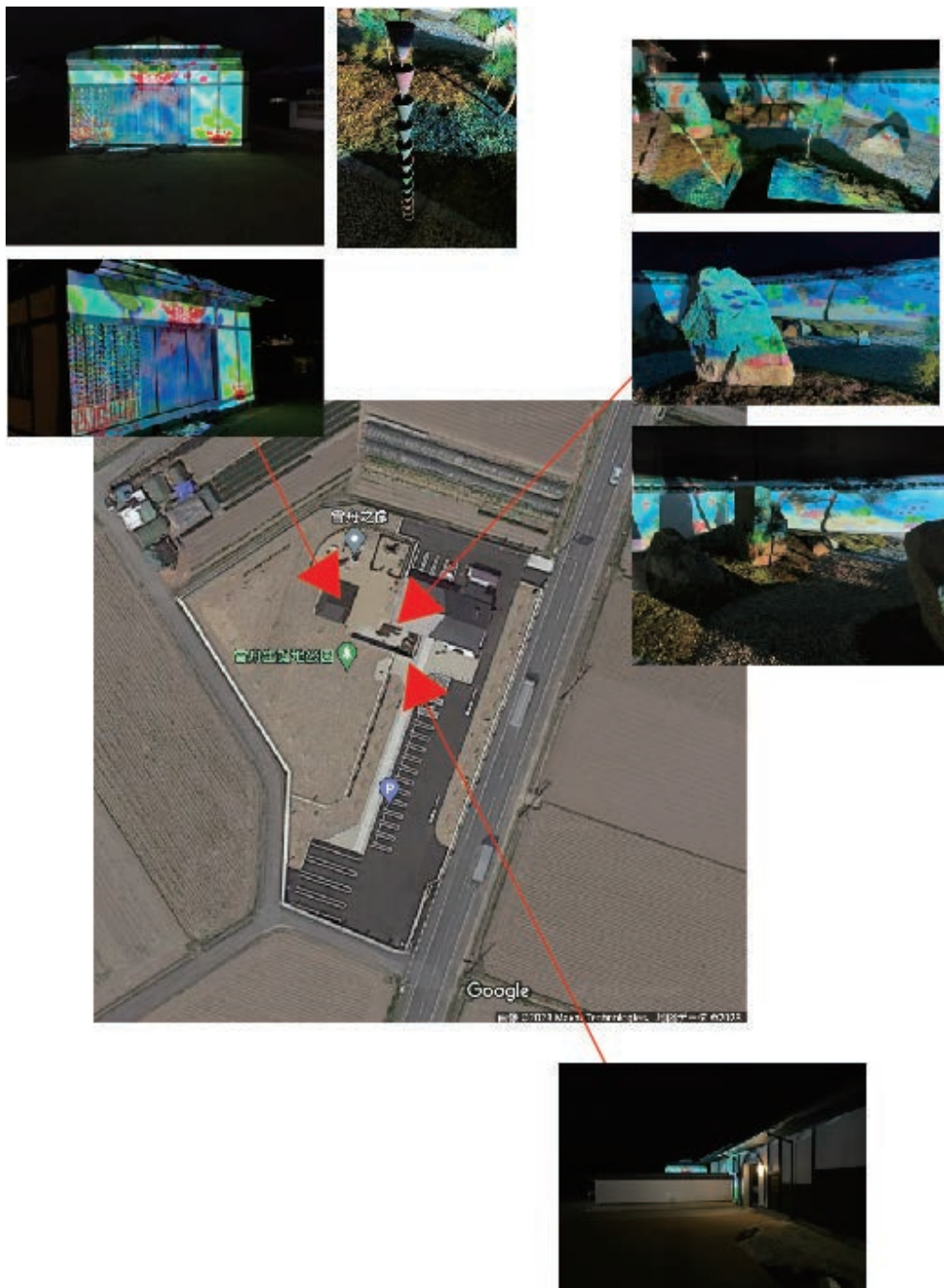


図12 プロジェクションマッピング設置図

■ 問題点

プロジェクターの最適位置をリサーチしたところ、投射対象物までの距離が比較的短いため、プロジェクター台を低い位置に設定しないといけないことがわかった。足場が不要なのはコスト的によいことではあるが鑑賞者が容易にプロジェクターに触れることができるため、その対策が必要となる。また、ロビー内の照明がプロジェクションマッピング映像に干渉するため投射時には消灯する必要がある。よって、プロジェクションマッピング実施時には安全性確保のための人員が必要となる。

■ 提案

「雪舟生誕地公園」でのプロジェクションマッピング投影は色鮮やかでまさに「インスタ映え」するものとなった。プロジェクションマッピングイベントとして実現可能であると同時に十分盛り上がるものとなるだろう。SNSでの展開も期待できる。立地が駅から少し離れたところに位置することもあり、プロジェクションマッピング実施に際しては観光シーズンである秋（10月～12月）日没時刻前の早い時間帯から、他の観光イベントとともに開催してイベントの盛り上げ、また、十分な告知を行うことで観客の動員は期待できるだろう。

本学～総社市とのコラボレーション事業として実施できれば、大きな話題となり、本学の実施しているアート&サイエンス教育の結果として創出されるテクノロジーアートの表現＝成果として確固たる内容となるだろう。

参考文献

川村 健一他著『ビジュアルクリエイターのための TOUCHDESIGNER バイブル』誠文堂新光社（2020/12/17）

松尾 豊他著『パブリックアートの展開と到達点』水曜社（2015/3/18）

Development of Art + Projection Mapping as a Community Collaboration Activity

～ Projection Mapping at Sesshu's Birthplace Park as an example

Hirokazu NAKAGAWA

College of Arts,

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received October 1, 2023)

This is a report on the project mapping at “Sesshu Birthplace Park” in Soja City, Okayama Prefecture, conducted in December 2022, and a research report. This project was realized in collaboration with the Soja City Cultural Promotion Division and is a study of artistic expression and the development of regional cooperation.

The projection mapping at “Sesshu's Birthplace Park” was colorful and truly “Insta-Eye”.

The projection mapping event at “Sesshu's Birthplace Park” was colorful and truly “Insta-Enjoyable” and will be a feasible and exciting event in the future.

However, since the projection mapping event is located a little far from the station, it will be difficult to mobilize the audience without sufficient information about the event as well as other tourist events during the tourist season in fall (October to December), when the sun sets early in the day.

If this project can be implemented in collaboration with Soja City, it will be a major topic of conversation, and the results will be a solid expression of the technology art created as a result of the art and science education conducted by the university.